

2. 東日本大震災の被災地ボランティア活動に

参加した看護学生の学習意欲への影響

名村沙織（ツカザキ病院），○木村美智子（関西福祉大学看護学部）

I. はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災は宮城県、福島県、岩手県を中心に甚大な災害を及ぼし、死者約16,000人と2,500人を超える行方不明者を出す大惨事となった。

本学では、2011年6月10日～13日東日本大震災被災地復興ボランティア活動に福祉学部、看護学部の19名が参加した。自らもそのボランティア活動に参加し、参加した後に学習に対する思いに変化が生じた。そのため、本研究では同じくボランティアに参加した看護学生にも学習に対して何らかの変化が生じたのではないかと考え、ボランティア活動に参加した看護学生の学習意欲への影響について明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 研究デザイン：質的記述的研究
2. 研究対象者：2011年6月10日～13日の東日本大震災被災地復興ボランティア活動に参加した看護学生4名
3. 研究期間：平成25年8月1日～平成25年12月20日
4. データ収集方法：研究の主旨に同意が得られた看護学生4名にインタビューガイドを用い半構成的面接を行った。面接は2回実施し、1回30分程度とし、面接内容は許可を得ICレコーダーに録音した。面接はプライバシーの保てる場所で行った。
5. データ分析方法：面接終了後逐語録を作成し、研究目的に則した文脈や語句を抽出しコード化し、さらにカテゴリ化した。全過程においてゼミ生3名、研究指導者の4名で分析内容を検討した。
6. 倫理的配慮：関西福祉大学倫理審査委員会の承諾を得、本研究を実施した。

III. 結果

インタビューの結果、【学習意欲の向上】【既習学習の理解の深まり】【人間的深みの獲得】【将来の職業に活かす】4つのカテゴリが抽出された。【学習意欲の向上】は「災害看護に関する学習への関心」「日常の学習意欲の向上」で示され、【既習学習の理解の深まり】は「コミュニケーションの重要性の理解」「生理的欲求の充足の理解」を示した。【人間的深みの獲得】は「価値の変化による人間理解の深まり」を示し、【将来の職業に活かす】は「経験を職業に活かす」「子供たちに対する思いの深まり」で示した。

IV. 結論

東日本大震災被災地復興ボランティアに参加した学生の学習意欲への影響は、『過去の学習に対するもの』『現在の学習に対するもの』『将来の学習に対するもの』に分類された。